

I. (各 2 点)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
×	×	○	○	×	×	×	○	○	×

II. (各 5 点)

(1) 対価を支払わない者の利用を排除できないという性質のこと。
(2) ある者の効用水準（満足度）を下げることなく、他の者の効用水準を引き上げることができるような動きをさす。
(3) 生産者と消費者の間で、生産者のみが情報を持っていること。たとえば牛肉偽装事件では、生産者は産地を偽装して販売していた。
(4) ある人の消費が他の人の消費を妨げない性質のこと。
(5) 市場に 1 社しか存在しない独占や数社しか存在しない寡占のように、十分な競争が行われない状態をさす。
(6) 外部性とは、ある個人や企業の行動が、市場を通さずに他の個人や企業に影響を与えること。ある人が消費したことによる利益が他の誰かにも利益をもたらす正の外部性と、公害のようにある商品を生産するときに、環境を悪化させるような負の外部性がある。
(7) ある人の効用水準（満足度）を下げることなく、他の誰かの効用水準をあげることができない状態をさす。
(8) 公共部門特有の非効率性をさす。公共部門では倒産の心配がないため、高賃金や経営者の努力不足を生むと考えられている。
(9) 電力やガスのような初期投資が巨大な費用低減型産業では、規模が大きいほど有利なため、競争の結果、弱者が淘汰され、自然に独占状態になってしまう。
(10) サミュエルソンが考えた公共財の最適供給ルールのこと。各個人の公共財と民間財の間の限界代替率の和が公共財と民間財の間の限界変形率に等しくなるというもの。なお限界代替率とは無差別曲線の傾き、限界変形率とは生産可能性曲線の傾きをさす。

III (各 5 点)

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
MC= 4	TR=(204-Q) × Q = 204Q - Q ²	MR=204 - 2Q	100	200	-3000